

電子辞書と紙の辞書

上田博人

電子辞書と紙の辞書、どちらを選ぶべきか迷う。結論から言ってしまうとどちらも必要ということになるだろう。

以前は電子辞書がなかったので、必然的に紙の辞書を使っていた。しかも本格的なスペイン語辞書は1つだけだったので選択の余地はなかった。今では紙の辞書も数種類発売され、その上に電子辞書も使えるようになったのだ。数年前から電子辞書はパソコンやケータイと同じように大学生にとってほとんど必須のアイテムになっているようだ。

電子辞書と紙の辞書を比べてみよう。まず気になるのが値段だ。たしかに電子辞書の方がかなり高価だが、単純に比較できない。スペイン語だけでなく日本語・英語・その他の情報が豊富で、総計すれば値段の価値を優に超えている。紙の辞書では不可能な音声までついている。計算機能やゲームなども付属しているので電車の中で結構遊べる。授業中はそんなことをしている暇はないけれど。

電子辞書は軽くて小さいので外出・旅行時に便利だ。教室でも電子辞書を使っている人が多い。私の場合海外出張の現場で辞書をひいている時間はないが、ホテルや宿舎ではよく使う。自宅では電子辞書と紙の辞書を使っている。

知らない単語に出会ったときに調べる速さはどうだろうか。20語ぐらい用意して試したところ、大差はなかった。紙の辞書を使い慣れているからだろう。電子辞書の私のキーインが遅いからかも知れない。電子辞書は1文字ごとに正しく打ち込まなくては目的の情報にたどり着かないが、紙の辞書では語全体の綴り字を一度頭の中に入れて、その全体像を辞書の見出し語のまとまりと照合しているようだ。電子辞書はピンポイント・デジタルの世界であり、紙の辞書はトータル・アナログの世界である。どちらも使いこなせばそれぞれの威力を発揮する。

単語が覚えられない、と悩む。逆に忘れない単語とはどのようなものだろうか。久し振りに別の外国語の語彙を調べていたら、基本単語や自分の専門に関する用語は忘れていないことがわかった。これらはほとんど一瞬の出会いによって頭に入ってしまう単語だ。練習した覚えもない。きっと人間の脳は自分にとって大切だと思うことをすぐに吸収してしまう力を持っているのだろう。その大切な出会いの場で電子辞書と紙の辞書が学習を支援してくれる。そして私たちは外国語を大切にスタート地点での意欲をいつまでも失わないようにしたい。

東京大学駒場生協 2009